

## 商標審査の品質管理の実施体制・実施状況に関する改善提言案

品質管理の実施体制・実施状況に関する評価を通じて、品質管理の実施体制・実施状況に関して改善が期待される事項について、委員から多くの意見が出された。これらの意見をもとに、令和元年度審査品質管理小委員会による改善提言の案を以下にまとめる。

### <改善提言1 審査体制の維持と更なる向上>（評価項目④、⑨に関して）

審査期間の長期化という課題に対応しつつ、審査の質の維持及び向上に必要な、審査官数の確保及びその育成の充実を図ることを期待する。

本提言に関連する委員からの主な意見は次のとおりである。

- (a) 出願増にも関わらず、実際の審査官数は減少傾向にあり、FAが極めて遅くなっていることが懸念される。早急に審査官を十分な人数まで増員し、審査実施体制を整えることが望まれる。
- (b) 国際的に遜色がない審査体制・人員配置の確立については、日本に固有の事情があれば配慮しつつ、実質的によりユーザーフレンドリーなシステムを確立するために引き続き取組を強化するよう期待する。
- (c) 出願増加による審査期間の長期化という問題について、審査品質の維持・向上という二律背反的な労力とのバランスを取りつつ、継続的総合的な検討と対策に期待する。
- (d) 各種審査支援のための取組を継続的に行うとともに、出願件数の増加を踏まえ、更なる増員が望まれる。
- (e) 審査実施体制については更なる充実が望まれる。来年度の任期付審査官の採用による改善を期待している。
- (f) 審査官数の確保及びその育成の充実。

**<改善提言2 判断の均質性の改善>（評価項目⑥～⑧に関して）**

判断の均質性に関するユーザーの問題意識やニーズに対応するため、審査における課題を分析し、均質性の高い審査を進めることを期待する。

本提言に関連する委員からの主な意見は次のとおりである。

- (a) 審査官間の均質性・識別性の判断改善に関するユーザーの問題意識やニーズに対し、これまでの取組を引き続き継続するとともに、商標審査基準等の指針に沿って統一のとれた審査を行うという審査の基本方針に従って適切に対応し、ユーザーが納得できる審査を進める必要がある。
- (b) 引き続き識別性に関する審査官の判断の均質性に関する取組を行い、統一された審査を行う。
- (c) 商標審査基準の理解等を通じ、審査官による審査の格差の改善の取組の継続等を期待する。
- (d) 審査官間の均質性向上のための具体的な取組が望まれる。
- (e) 審査の質に関し、ユーザーとの意見交換を継続するとともに、課題を抽出し、分析・改善することを期待する。

**<改善提言3 ユーザーとのコミュニケーションの充実>（評価項目⑥～⑧に関して）**

電話・面接等のコミュニケーションにおける課題を明らかにし、ユーザーとのコミュニケーションを充実させることを期待する。

本提言に関連する委員からの主な意見は次のとおりである。

- (a) ユーザーとのコミュニケーションにおける課題を明らかにするとともに、代理人の選任を行っていない出願人に対する積極的な支援を継続し、コミュニケーションの充実を進める必要がある。
- (b) 代理人の選任を行っていない出願人に対する支援については、基本的知識へのアクセスの利便性をさらに充実させることが望まれる。
- (c) 面接で合意した事項を可能な限り面接記録に残し、明確にする。

**<改善提言4 審査の質向上の取組に関する効果的な情報発信>**（評価項目⑪に関して）

日本国特許庁の判断に対する国内外のユーザー及び外国特許庁からの信頼感のさらなる向上のため、審査の質向上に関する取組の効果的な情報発信を期待する。

本提言に関連する委員からの主な意見は次のとおりである。

- (a) 審査の質向上に関する取組を進めることで日本国特許庁への信頼が向上したか否か等、質への取組が日本国特許庁のプレゼンスに与える影響を調査し情報発信に活用してもよいのではないかと。
- (b) 情報発信の取組が十分かどうかは、信頼感が得られているかどうか、共同で審査の質向上のための取組が実現できているかどうかだと思います。
- (c) 質向上の取組を継続して発信すると共に、諸外国の特許庁に対し商標審査の質の向上を働きかけてもらうことを期待する。
- (d) 外国特許庁の挙げる課題に日本との大きい相違があれば何らかの形で公表するとともに、これらの成果のフィードバックが継続されることを期待する。
- (e) 運用のみが改定された場合は、その改定されたことの周知が十分ではないように感じている。今後は運用の改定についても可能な限り周知を図っていただけることを期待する。
- (f) 情報発信について、JPO の様々な取組を内外へより積極的にアピールすることが望まれる。